

0. はじめに

本調査では、2日間にわたり、グループホーム B における認知症患者との相互行為のあり方をビデオ撮影を行いながら調査した。そのデータの中で、私たちが会話をした A さんには、5つの特徴があることを発見した。1つ目は、道徳的規範を知っているが自分はできていないことを自ら主張したことである。2つ目は、道徳的規範を知っていて、自分も実践できていることである。3つ目は、沈黙の後に、A さんから、突然苦労話をするとところである。4つ目は、会話の中に見せる笑いの性質についてである。そして5つ目は、配慮の示し方を使い分けているところである。これらの事例に焦点をあて、相互行為分析を行う。

1. 会話の分析と視点

人間の社会生活とは、物の名前を知っていることだけでなく、場面に合わせて適切なコミュニケーションをすることでも支えられている。コミュニケーションには、相手に配慮を示すという規範的な要素があって、その中には相手を道徳的に貶めないことや自分を道徳的に高い位置にいるという表示を積極的にしない、自慢しないという部分もある。これは、A さんだけでなく、教員や学生においても存在するコミュニケーションの規範的要素であることが今回のデータからも見て取れた。私たちが分析を行うのは、このような、場面に合わせてコミュニケーションをとる（認知症者を含んだ）人々の方法である。

2. 生活習慣について

2-1. 高度なコミュニケーション能力

調査したデータを分析していく中で、A さんの高度なコミュニケーションの能力が、相互行為の中に見てとれた。以下の「断片 1」を見てほしい。この場面では、A さんの生活習慣について話している場面で、学生③が A さんに現在のことについて、起床時間はいつなのかを質問しているところから会話が始まる。しかし、学生③の発話は特に過去のことに関及していない以上、現在の状況について質問しているようにみえるのに対して、A さんは、グループホーム B に入る以前、昔の状況の話をしている。この食い違いにまずは注目してほしい。また、アの部分にある「きつい質問じゃなあ」の部分や、イの部分の「ちょっと言いにくい」という様な表現を使っているところにも注目してほしい。つまり、A さんは、自分は道徳を知っているが、自分の行動が道徳的ではないことをも知っているとして主張してい

るのである。自己を貶めつつ、道徳を知っているということをも同時に主張することの高度さは特筆に価する。また、ウの部分で「つらいのは～」とあるように A さんが突然苦労話を始めるところも興味深い。他にも、A さんが会話中に見せる笑いの性質にも以下触れることで、グループホームの中で「認知症」の入所者が示しうるコミュニケーション上の能力を相互行為分析的に、確認していきたい。

2-2. 会話の分析

〈断片 1ⁱ〉生活習慣について話している場面

日時：7月27日 18:39:04～

場面の参加者：Aさん…A、教員 K…教、学生①…①、
学生②…②、学生③…③

◎場面の説明

堀江が A さんに(現在の)起床時間は何時ぐらいなのかを質問しているところである。写真下のトランスクリプトで、矢印がついている行が私たちが注目した点である。



▽ 6:39:04～

01③ 朝は何時ぐらいに起きてるんですか？

- ア→ 02A きつい質問じゃなあ；[Ahaha[hahaha
 03① [Ahaha[ha
 04② [Ahaha[ha
 05③ [あ：：：]
- 06A いや、宵にな、11時12時までお人が来て去なんⁱⁱ人があるでえ。
 07③ はあ：：。
 08A 話や[したら。
 09② [へ：。
 10A 早去んでつたと[は言えんでえ。
 11② [Ahaha[ha
- イ→12A [私も会社辞めとるけんなあ。遅おに12時前まで人が
 きたらああこりやいかんもう寝る時間じゃけん去ぬわなあと思う（ ）
 帰るでえ。ほなけん朝はFufu ちょっと言いにくい、9時まで寝よ[るFufufufu。
 13② [Ahahahaha
 14A 誰っちゃ寝て怒る人ない[けんなあ。
 15② [あ：：]
 16A 母さんがおるだけで誰っちゃ、私と2人やけんなあ。うん。
- ウ→ 17A (8.0秒) つらいのは私山なんですよ。よんとう山っていうな、山のふもとから
 学校通ったけん遠かった：：。うん。
 18① 学校まではどうやって行ったんですか？
 19A ん？もちろんタクシーや。
 20① タクシー？
 21教 テ、タクシー。てくてくてくてくて[く。 [タクシー。
- エ→ 22A テクシー。Fufufufu [((Aさんが手を叩く))
 23① [Ahaha[haha[hahahahaha[haha
 24② [あ；ha[haha[hahahahaha[ha
 25③ [あ：[：]
 26A [ごめんなさい
 27① テクシー。えっ、じゃあどれぐらいかかってたんですか？
 28A 40分から45[分かな。一生懸命走るように行つてな。
 29② [え：：]
 30教 ((遠くの職員に向かって))[誰もいないです。
 31① [毎朝歩いて。[40分ぐらい。
 32A [うん。
 33A ((Aさんが振り返りながら))どしたん？

- 34 教 誰か探してるんですけど、誰も今スタ、スタッフさんい、あっ、そちらいらっ
しゃいま：す。なんか、よっ、誰か呼びにいらっしゃいました。
- 35A あっ、この人はこの事務員さん。
- 36 教 あっ、そうですか。
- 37A うん。
- 38 教 呼びにいらっしゃいましたけど。
- 39② (4.0 秒) 早く歩いて 40 分ですか？
- 40A 40 分ではちょっと胸がせこいⁱⁱⁱな。うん。

3. 考察

3-1 道徳的規範と隣接対の秩序

以下、「断片 1」からみてとれることを少し詳しく確認しておきたい。私たちが、現在の
ことについて、「朝は何時に起きていますか？」と質問すると、A さんは、「きつい質問
じゃなあ」と口を濁しているところから、これが答えにくい質問だと A さんが受け取った
ことが伺える。また、イの部分の「ちょっと言いにくい」という発話から、自分が 9 時ま
で寝ていることが道徳違反であることを自ら主張している。このことから、早起きが規範
的に適切なことであるとわかっていることを A さんは示しているが、実践はできていない
ことをも A さん自身は同時に表示している。また、「ちょっと言いにくい」などの会話から
入っているところから、1つ1つの発話に聞き手の関心を持たせることに成功している。

その上、アの部分の発話において、グループホームでは 23 時以降という遅い時間帯まで
来客が在所しているとは考えられないので、A さんが話している状況はグループホーム B
に入る以前のことだということが分かる。A さんは今の状況についての質問に対して昔の状
況について返答している。しかし、時制的にはこちら側の期待する返答とは異なっている
ものの、コミュニケーション的には質問に答える隣接対の秩序を守っている点で最低減の
レベルにおいて対応しているといえる。つまり、私たちが「それは昔の話ですか？」のよ
うに聞いたり「朝は何時ぐらいに起きてるんですか？」という形で問い返したり、質問の
初めに「現在は」という言葉を入れて深く追求したりしていないので、トラブルがなく、
話の流れとしてはスムーズに流れている。つまり、会話の呼応関係が成立している。とこ
ろで、おそらくこのような生活状況についての質問は、身内やグループホーム内ではされ
ない質問である。スタッフは通常のグループホーム内のスケジュールを知っているからで
ある。したがって、日頃話しなれていないことを訪問者である学生が聞いているというこ
とができるであろう。このように話し方のストックがない場合には、その場で答えを作り
出さなければならないが、もしかしたら、そこにおいて「認知症」であることが影響して
今のことが分からないので昔のことを相手に話して、誤魔化している可能性もある（朝起
きる時間の他にも、就寝時間などの会話でもよく似た会話があった）。

3-2 苦労話を使った話し手のテクニック

さて、ウの部分では、私たちの質問からではなく、Aさんの発話から会話が始まる。この発話の冒頭の「つらいのは～」の部分で、Aさんがこれから話す内容が苦労話であることが予想できる。誰かが苦労話をする場合、周りには必然的に注意力を上げてその話を聞くことになる。つまりここで、Aさんは人に苦労話をする事で相手の気を引くテクニックを使っていると考えられる。

その後の会話において、「テクシー(てくてく歩いていくこと)」という言葉がでてくるが、教員Kはその言葉の意味を知っていたが学生①と学生②は知らなかった。エの部分でAさんが笑って手を叩きながら、「ごめんなさい」と言っている。このAさんの発話は、相手に分かりづらいことを言ったので謝っていると考えられよう。つまり、Aさんにはこのような相手の理解範囲を答えたことをいったと理解して謝罪するコミュニケーション能力があるといえよう。この場面は、Aさんが相手の理解力を把握しながら自分が発すべき言葉を選択すべきであったにもかかわらず、そのことができていなかったというAさんの無能力を証明する場面であるともとれるが、教員が「テクシー(テクテクと歩いていくこと)」と付け加えたことを受けて、そのクレームに対して適切に謝罪する能力を持っていることの、つまりはAさんの有能さの証明の場であるともとれる。

また、Aさんの苦労話の途中で、教員が遠くのスタッフに話しかけているのにAさんが気づき、33Aの発話があつて話題がいったん中断されるシーンがある(38行目まで)。まずはこれにより、Aさんは会話をしながらでも周りの状況を見ていることが分かる。その後、沈黙があり、39②が苦労話に話題を戻しても、Aさんはすぐに答え得ている。つまり、主たる話題(トピック)の継続と、それに比べれば従たる存在である話題の挿入をその構造の形式ごと、Aさんは理解しているといえるのである。これらのシークエンスなコミュニケーションを適切に遂行していく能力において、Aさんの示しているの能力は十全なものであると言えよう。

3-3 笑いの性質

ところで、Aさんは会話の合間に時折笑いを見せる。以下しばらくはこのことに注目して分析を行っていくことにしよう。高山・千田(2003:151-2)は、認知症患者の笑いの質に関する研究を行っている。その方法は、中等度・重度痴呆患者5名が対象者で、観察した結果から彼らの笑いが生じた状況を抽出し、次のように分類している。

- ・ 内面世界優位の笑い(思い出し笑い、空想的笑い)
- ・ 対人的一方向的笑い(遠くの人を見ての笑い)
- ・ 他者対応的笑い(不意をつかれた反射的笑い、挨拶的笑い、愛想笑い、照れ笑い(防衛的、羞恥心的)、ごまかし笑い)
- ・ 相互関係の中での笑い

この研究により高山・千田は、「重度の患者でも[他者]対応的笑いは最後まで残っており、これは痴呆が進行して人格が崩壊してゆく過程での彼らなりの自己防衛的な力の現れとも考えられる」(高山, 千田, 2003 : 152)と主張している ([]の内は本論文の筆者による)。イの部分の「ほなけん朝は Fufu ちょつと言いくい、9時まで寝よる」という発話中の笑いは、高山・千田 (2003 : 152) の分類に依拠するならば、他者対応的笑いの中の羞恥心的照れ笑いにあてはまると考えられる。しかし、上記でみてきたように相互行為分析的には、自らの道徳的規範運用能力を誇示する“自己主張的笑い”であると見なすことも可能であるように思われた。

また、エの部分の「タクシー。Fufufu」という笑いの後、全員が「Ahahahaha」と笑っている部分も興味深い。ここでの笑いの展開を少し詳細に述べると、まず A さんが「もちろんタクシーや」と返答しているが、学生①には「タクシー」の意味が分からず、そして聞き間違えたと思ったらしく「タクシー？」と聞き返している。その後、教員 K と A さんの言葉が同時に発せられ、自分が期待する反応がされなかったことと、自分の答え方が相手に分かりづらかったことに対しての申し訳なさを表示する形で A さんがまず笑い、つられて全員が笑いを共有している。この笑いの連鎖が何を意味しているか考察するにあたっては、Glenn を引いての檜田の主張が参考になる。すなわち「ここでの笑いには、Glenn (1995:51) がいうところの、自分自身に対する笑いから、共同的な笑い[へ]の移行が起きているといえよう。この様な笑いの移行が起きている場面は、その場に集まっている人全体の連帯が最終的には獲得されるような場面であり、そういう場面の契機として、自分自身に対する笑いが最初になされ、その笑いが、共同的笑いを励起する、という形が取られている。」(檜田, 2010 : 10、[]内は本論文の筆者による)。ここでの共同的な笑いは、その場にいる人々が、その会話についての理解を共有しているということの表示とみなせるのである。ということはここで、直接的には「タクシー」という言葉の意味の理解がかなり難しいという理解が共有されているということであり、間接的には「聞き手の理解できる程度を配慮して、話し手はその話の難度を調整しなければならないが、今回の場合それに話者 A さんは失敗した。そして、そのような失敗は、謝罪に価することだが、その謝罪すべきであるという「正しい」理解に A さんは率先して達している」という理解が共有されているともいえるのである。01③で学生③が現在の起床時間について聞いているが、06Aで A さん昔のことについて話し出す。ここで、学生③は自分の質問の主旨とは違う答えを A さんがしているので、戸惑い、07③のような曖昧な反応をしている。A さんはそのまま話を続け、11②では学生②が笑う。ここでの学生②の笑いは上記で述べた共同的な笑いではないが、A さんの話を少なくとも相互行為的には適切なものとして理解しているという表示をしているものなのである。

檜田 (2010) の Glenn (1995) 理解によると笑いには、相互行為上の理解の共有を表示する機能がある。実は、理解の表示は簡単なことではない。例えば、会話においてオウム返しをすることは、理解の表示として十分ではない。内容を理解していなくても、人は「オ

ウム返し」をすることができる。したがって、むしろ、会話を理解している人ほど、相手の言葉と違った言葉で発話を返してくる。ただ、どの程度の違った言葉までが理解の表示として認められるかは微妙である。それに比べて、笑いは同時に発話ができ、理解の表示の示し方として簡便である。言語学は、意味論 Semantics、構文論 Syntax、語用論 Pragmatics の3つに分類することができる。ここで我々が言及している笑いは、この3分類でいうと、語用論の分類に当てはまる。語用論とは、実際どんな場面でどのように言語が使われているのかというところに視点を置いている学問であるが、その立場から笑いを考えることは、相互行為上の意味を考えることであり、エスノメソドロジーと親和性がある。

また、高山・千田（2003）による笑いは、言語学で言う意味論でその理解を表現しているが、語用論の立場から見ると、我々の視点と接続を踏むことができる。まず、一つ目の立論は、4つに分類したうちの下二つが相互行為的であり、他者対応的笑いと相互関係の中での笑いが認知症者に長く残っていることは、我々の観察と一致している。これは、すなわち Glenn（1995）がいう相互行為上の笑いと同一視点で、Aさんのコミュニケーションから伺える笑いと同一ものが長く残っているということである。要するに、このAさんの会話に見られる笑いは、Glenn（1995）が述べている相互行為上における理解の表示で説明されるとともに、高山・千田（2003）が分類している他者対応的笑いと相互関係の中での笑いについての議論とも接続のよいものだといえるのである。

4. 日常生活について

4-1. コミュニケーション上の適切さ

ここでは、Aさんの日常生活について話をしている場面で、学生①がAさんにいつもお風呂は何時頃入るのか質問しているところから会話が始まる。Aさんが答え、学生が対応するこの30行強の会話から、Aさんが生活をするにあたって道徳的に守るべき規範を知っており、少なくともAさん自身道徳を気遣いながら振舞っていることを主張しようと思っていることがわかる。また、この場面ではAさんが学生たちに対して気を配っているところが伺える。この第4節で私たちは、Aさんが自らの行動の道徳性を主張することで、同時に、自らがコミュニケーション上適切に振る舞う能力を持っていることを表示することに成功していると主張する。以下はその論証である。

4-2. 会話の分析

〈断片2〉日常生活について話している場面

日時：2009年7月27日19:05:22～

場面の参加者：学生①・・・①、学生②・・・②、学生③・・・③

◎場面の説明

断片2も断片1と同様に、日常生活について質問している場面である。ここでは、学生①がAさんに(現在いる施設では)お風呂には何時ぐらいに入っているのかということ質問している。また、断片2のトランスクリプトにも、断片1と同じように矢印をつけているが、その矢印の行が私たちが注目しているポイントの行である。



▽7:05:22 PM

写真2：日常生活について話をしている場面

▽ 7:05:23～

01① いつもお風呂は何時ごろ入られるんですか？

オ→ 02A それわな：私ちょっとその話が全然違うんやけどな：最初はな、子どもが寝とったら親がな、ちゃんとしよったんやけど、みんながいった一番後でしかな、さきさきはでしやばらんようにしよるん、親にいわれとったけんな、入れんでえなあ。

03① ふ：ん((うなずく))

- 04A ()
- 05① ふ：ん、(?)
- 06A うん。
- 07A (20.0) ((Aさんが振り返る))
- 08A (11.0) ((Aさんが再び振り返る))
- 09A 隣の人が早自分の部屋に入ってしもた。
- 10② そうですね[: Ahahaha
- 11A [Ahaha
- 12A () よそと違うけん。あんたら大変で：徳島までこれから帰るんだったら。
- 13② Fufufufu
- 14A 明日遅刻せんようにせな[なあ。
- 15① [Ahahaha
- 16A Ahahaha
- 17A 若いけん頑張れるわ[なあ。
- 18① [((うなずく))
- 19A うん。((うなずく))
- 20① も：いつもこの時間帯になったら部屋に入られるんですか？
- 21A うん。もうこの時期みんな去んでしまっって部屋に入ってしまうんよ。
- 22① Aさんはいつもまだテレビ見よんですか？
- カ→ 23A ((後ろを指しながら)) いや、ここの事務員さんが誰かおる限りは起きとるけんな。
- 24① そうなんです[か：。
- 25A [うん。
- 26① へえ：。
- 27A 私は向こうの一番：部屋で 1 人な、おるけんなあ。((指差しながら)) あのチューリップの部屋。
- 28① ああ：((うなずく))
- 29② (17.0) ((後ろを振り返りる)) いつもここ座っとんですか？ここの席に。
- 30A ここ私の席。
- 31② あ：もう決まっとん。

5. 考察

5-1. 道徳規範の実践

Aさんにいつも何時にお風呂に入っているのかを聞いたところ、オの部分より「私ちょ

っと話が全然違うんやけどな～」と口を濁しながら話し始めている。Aさんは嫁にあっており、嫁はお風呂は最後に入らなければならないと親に言われていたので、いつも最後に入っていたと（この部分ではおそらく）話している。これは、内容は別にして、コミュニケーション的には大変適切な発話であるといえよう。なぜなら、Aさん自身が、質問－回答連鎖における隣接対を分かっていることの表示であると見てとれるからである。質問－回答連鎖における隣接対の観点から見ると、学生①の 01①の質問は「時間」に関する質問である。このように第一成分が「時間」に関するものであるとき、Aさんが話すべき回答、すなわち第二成分は「時間」に関するものとなる。しかし、ここで隣接対を理解しているにもかかわらず、なぜかAさんは回答の第二成分を「時間」ではなく、「順番」に置き換えている。要するに、本来答えなくてはならない「時間」の回答を、理由は別として、とにかく答えることができないから「時間」に近い「順番」に置き換えて説明しているのである。このやりとりを我々はどのように理解すればよいのだろうか。これはコミュニケーション能力の発揮という観点から答えることができるように思われる。オの部分の「私ちょっと話が全然違うんやけどな～」というAさんの発話は、言い訳をしつつも入浴順番を会話上の利用可能な資源として話しているように見えるのである。これは、Aさんが、隣接対は強い規範力を持っているから、回答部分の記憶をたとえ忘れていても、できる限りの適切さで答えなければならないと適正に判断したということの意味しているのかもしれない。すなわち、高度なコミュニケーション能力を持っているという判断をAさんに下すことができるように思われるのである。また、Aさんが「さきさきはでしゃばらんようにしよる」と話しているところから、Aさんは自分を第一に考えるようなことはしない性格であると自ら主張しているように見えるが、このAさんの道徳規範の実践に関する主張を私たちはすんなり受け入れてこのトランスクリプトを読むことができる。すなわち、少なくともその程度はAさんは会話にリアリティを持たせることに成功しているのである。さらに、オの部分の会話から、日常生活において、Aさんは嫁に行った立場なので、お風呂は皆が入った後に入らなければならないという規範を知った上で、それをAさんが実践したと主張しているといえる。このようにAさんが話している道徳規範は家族についての規範であり、かつ、断片1では実践しそこなっていたがこの場面では実践してきた規範として論じることに成功している。

5-2. 相互気配り

長い沈黙があった後に、09AでAさんが沈黙を断ち切るように話を始める。そのときに出てきた会話「隣の人が早自分の部屋に入ってしもた」で、いつも19時には部屋に入ってお休みになっているという職員さんの話から、学生は「もう早く帰ってほしいな」と遠まわしに言われたと解釈した。しかし、カの部分の「いや、この職員さんが誰かおる限りは起きとるけんな」という発話から、「早く帰って」とは言っていない。むしろAさんは、私たちに対して気配りができていると考えられる。また、カの部分の発話は、長い沈黙を

断ち切るために、とっさに出てしまった発話ともとれる。

カの部分や 27A の発話は、A さんから話し出している。この会話の他にも、A さん自身から会話を作り出していることから、積極的で自分から話をよくする人であると分析する。その会話で、18 時半から 19 時半の間に「ご飯は食べてきたん？」という学生の晩御飯に関して気を配っている発話は 3 回あった。また、この 1 時間の間に「帰りはどうやって帰るん？」「どこまで帰るん？」「徳島市内までどれぐらいかかるん？」という発話は全部で 9 回あった。この何度も繰り返される A さんの発話は、一見、認知症患者という立場からトラブルが起こっていると見がちだが、03①「ふ～ん」という返答や 10②の笑いを引き起こし、相互行為として 1 つ 1 つの展開を受け入れていることから、A さん単独でしているのではなく、学生たちも加わっている相互気配りであるということが分かる。A さんは、学生をお客さんという立場で場面にふさわしいコミュニケーションをしていることから、この会話は無能さだけでなく、トラブルを最小化にしているという意味で有能さにもなっている。ここでいう場面は、学生らお客さんだが、樫田 (2006 : 173) の場面では、スタッフの人であり、同じことを述べている。養護老人ホームの患者は、スタッフに爪をきってもらうのに「あんたら忙しいけん、自分でするからかんまん」とスタッフが忙しいことに配慮を示している。A さんの場合は、客人向けの配慮の示し方をしており、コミュニケーション上の適切さは十分に確保されている。また、この発話や 12A の「あんたら大変で～」という発話も A さんなりの学生に対する相互気配りだと考えられる。

6. まとめ

これまで見てきたように、私たちは「道徳的規範」「苦労話」「笑い」「相互気配り」をキーワードに分析を行ってきた。その分析の中で、認知症患者は認知症独特の特徴も持っているが、認知症が始まる前に形成し、保持していたコミュニケーション能力も持っていることがわかった。認知症患者は、適切な場面さえ提供されるなら、認知症特有の性質（かもしれないもの）と既存のコミュニケーション能力とを巧みに組み合わせて利用し、相互行為を適切化していく力を持っているように思われた。そういうことの結論として主張して良いだけの証拠をデータの中に見出し得たように思われた。

最後に、今回の報告書執筆にあたり、貴重なお時間を割いて私どもの調査事例の検証に参加しご協力をくださった、信州大学医学部井口高志氏と京都大学大学院文学研究科行動文化学専攻木下衆氏、また調査協力の依頼に応じてくださったグループホーム B の関係者の方々、入居者の方々には深く御礼申し上げたい。

参考文献・引用

高山成子・千田友子 (2003) 「軽度・重度痴呆症患者における笑いの種類と笑いを引き

出す方法についての研究』『笑い学研究』, 10, 149-152, (助成研究報告, 7月19日, 13:00
～13:30, at 401)

榎田美雄 (2010) 「病院に行く—医療場面のコミュニケーション分析—」, 好井・串田編
『エスノメソドロジーを学ぶ人のために』第2部第7章, 世界思想社

榎田美雄 (2006) 「『弱者の抵抗』の非個人能力主義的解釈—論理的達成と会話的達成」『ソ
シオロジ』, 51-1 : 171 - 177

i 断片1において全ての固有名詞は匿名化している。

ii 去(い)なん→去ぬの否定形 去ぬ→方言で帰る、戻るの意。

iii せこい→方言で苦しい、大変の意。